

豊橋ハートセンター

風船療法の最新技術を探求

手術の光景を生中継 日本心血管インテ
ーベンション総会へ

バイパス手術を担当する鈴木院長（豊橋市大山町、豊橋ハートセンターで）

心臓疾患を専門にした高度医療施設である、豊橋市大山町の豊橋ハートセンター（鈴木孝彦院長）は1日、新たな器具や薬を用いた心臓バイパス手術のテストデモンストレーションを実施し、名古屋市熱田区の市国際会議場で開かれていた第13回日本心血管インターベンション総会に手術模様の映像をライブ放送。

同総会に出席していた国内外の医師や専門家など約1300人と先

端医療の技術についてライブデモンストレーションを繰り広げた。

豊橋ハートセンターは、心臓外科の専門家、鈴木医師などが、99年5月に開院。心臓のバイパス手術では日本内外をリードしている。

豊橋ハートセンターが取り組んだ新技術は、「DES（潤滑薬）を用いた、より挑戦的なPCI（風船療法）」。

外国では使用が認められているDES使用を想定し、狭く入り組んでいる冠動脈に管を挿入。詰まっていたり、ふさがっている冠動脈に、空気などで膨らませて風船（バルーン）治療などをし、冠動脈のバイパス治療を試みるもの。DESは今年の夏、厚生労働省から国内で使用できる認可を受ける予定という。手術は、同院に入院している患者8人が応募し、参加した。執刀した鈴木院長は、右冠状動脈に疾患を持っていた、73歳の男性を担当。豊橋ハートセンターのスタッフなどが、鈴木院長の風船療法を撮影して、名古屋市の国際会議場に集まっている医師などに對してライブで放映しながら相互に意見を交換。より良い医療方法をケースごとに導くなど、治療技術の向上を図るラ

イブデモンストレーションを繰り広げた。

ほかに、関西労災病院や岡崎市民病院、日本医科大学などの医療施設に務める専門医師と若手医師が相互にベアを組み、実際に手術を担当し、技

術の継承を行う「教育的ライブデモンストレーション」も豊橋ハートセンターのオベア室内で撮影され、同学会としては初めてライブで公開された。学会によると、00年4月現在でバイパス手術が

できる医療施設は国内で1240施設で、扱った手術例は約14万7000件。3年前に比べると約30%ほど増えたものの、人口100万人に対して1160件の水準にとどまっているという。